

新制度を導入し 女性も男性も働きやすい職場へ 株式会社安藤組



▲事務所では女性も活躍



◀社屋前の作業風景



この人に
聞きました

経営管理部総務課長
佐藤 理果さん

女性社員の「もっと働きたい」 の声から新制度導入

創業は昭和21年。70年近くにおよぶ歴史がある株式会社安藤組。高度経済成長期や、バブル経済の崩壊など、様々な外部環境の変化の中を生き抜いてきた。その根幹には社員一人ひとりにとって働きやすい環境とは何かを常に考えてきた会社の姿勢がある。

同社においても以前は、結婚や妊娠が理由で退職せざるを得ない女性社員もあり、自分では働きたい気持ちがあるのに子育て等の関係で働けないという声が聞かれた。「もっと働きたい。」という女性の声は確実に大きくなっていき、会社としても入社、退社の繰り返しではコストに合わないという判断から、平成17年に施行した「育児・介護休業法」を遵守しつつ、新人事制度を策定し、より一層、女性が能力を発揮できる職場作り、その能力を評価できる仕組み作りに取り組んだ。(新人事制度では、短時間勤務制度や時差出勤制度、フレックスタイム制度を導入している。)「企業として社員の方、一人ひとりに

とって働きやすい環境とは何かをいつも考えながら、個々のモチベーションを高めていくにはどうしたら良いのだろうかという模索を続けてきました。」と語る佐藤さん。その一つの答えが、新人事制度であったわけだ。

取組みの結果、現在、颯爽とダンプカーを運転する、活躍中の女性ドライバーが4名在籍する。

扶養家族のいない女性社員にも 「家族応援手当」を支給

同社では女性社員に「家族応援手当」を支給している。それまでの家族手当は、扶養家族のいない女性社員には無関係だった。それを「より公平な給与の実現」、「家族に支えられてこそ社員が働ける」という考えから、扶養家族のいない女性社員にも「家族応援手当」を支給する制度を実施したのである。

また、同社では、今は育児も女性だけの時代ではなく、父親としての時間を作る制度作りが重要であるという考えから、現在、父親の子育て支援などの施策を検討

中とのことだった。

地域との繋がりを大切に 「働く車」の実演授業

同社では地域との繋がりを大切にしており、地域の小学校で「働く車」の授業を実施している。地元で資源回収事業を始めたことが縁となり、小学校からの要望に応じての実施となった。当日は資源回収をしている車を持ち込み、どうやって資源回収しているかを担当者が生徒たちの前で実演して見せた。

その他にも、学校のグラウンドを会場にダンプカーやミキサー車を見学してもらい、停車中の荷台に子ども達を乗せるなど、地域の子どもの体験学習に寄与している。

休暇制度にも、社員在住市町村の祭りや行事等に参加しやすいように「祭り休暇」を設定している。社員が地域行事へ参加することは、ひいては、地域貢献に繋がると考え、休暇取得を奨励している。

(平成20年取材)



株式会社安藤組

住 所:東田川郡庄内町提興屋中島80
代表者:代表取締役 安藤 政則
業 種:建設業
従業員:45名(女性9名、男性36名)
<http://www.ando-g.co.jp/>

企業より一言

取り巻く環境として、建設業界、運送業界、自動車業界ともに大変厳しい状況下にあります。しかし、変化はチャンス、飛躍の好材料と捉え、全社員「気」を一つにし舞い上がることなく、一步一步、地に足を着け「地域」になくはならない企業集団であり続けたい。その一心で一層努力してまいります。

会社・社員・地域 「絆」が支える女性の活躍

株式会社大場組



この人に
聞きました

代表取締役
大場 利秋さん



▲朝の職長会議は創業から継続



◀中間処理施設

女性取締役をはじめ 多数の女性管理職が活躍

建設業を主軸とし、産廃処理事業、福祉事業、サービス事業、アグリ事業と多方面にわたる事業を展開する株式会社大場組。環境、リサイクル、介護福祉、食育といった様々なキーワードに沿って事業を展開してきた。

また、少子化、高齢化、過疎化の進むエリアにあって雇用の機会の創出にも一役を担っている。

女性取締役をはじめとして、5名の女性社員が管理職として活躍している。また、正社員転換制度を設けており、これまで

に2名がパート社員から正社員へととなった実績がある。社員に対し、就業規則、特に育児休業制度などの周知に努めるだけでなく、制度活用を積極的に奨励しており、子育てしながら安心して女性が働ける環境整備に努めている。

会社を支える先輩社員と 後輩社員の繋がり

新入社員は、職場の先輩から実地指導（特に安全管理など）を受けながら、社会人としての礼節やスキルを学んでいる。

また、自己啓発を促すため、月に1度、社員研修会を開催。社外から講師を招き、

新人研修、管理者研修、生産管理者研修、財務管理研修のほか、経営学や資材管理、経営戦略等の実務についても専門分野の勉強をしている。

また、社内の清掃についても女性社員だけが行うのではなく、職位や男女に関わらず行っている。社員一人ひとりの自覚が高まり、常に社内が整理整頓され、玄関先やトイレといったパブリックスペースなども綺麗に使用されるという思わぬ効果もあった。

セクシュアルハラスメント防止についての文書を全社員に配布し、周知徹底を図るとともに、社内に苦情相談窓口を設置している。

次世代を担う地域の子供の教育が重要であること、また地域のために必要とされる企業を目指していることなどから、会社見学を希望する地元の小・中・高校生を積極的に受け入れている。これがきっかけとなり、その後、入社した社員もいる。また、「ヤナ茶屋もがみ」でヤナを生かして、年間を通して最上小国川のゴミ拾いを実施。地域貢献の一環として、環境保全活動を推進している。

(平成21年取材)

社員の Voice

先輩社員がアドバイス

管理部総務課 菅きえ子さん

制度の充実による、子育てしながらでも安心して働ける環境整備に努めています。女性社員のみならず、特に若い方には、これから訪れるであろう結婚や出産・子育てなどについて、経験者である先輩社員がさまざまなアドバイスも行っています。日々のコミュニケーションあってのことと思いますが、なかなか好評です。



株式会社大場組

住 所:最上町大字志茂277-6
代表者:代表取締役 大場 利秋
業 種:建設業
従業員:95名(女性20名、男性75名)
<http://www.o-bagumi.co.jp>

企業より一言

価値観・ニーズの多様化、技術革新の急進など、時代は大きく変化しています。そんな時代の要請に対応して、工事のシステム化など改善、改革に取り組んでいます。根本は、創業の原点である「お客様に満足して頂く仕事をする」という姿勢。「生涯に誇れる現場づくり」という使命の実現を目指します。



女性
活躍

家庭
両立

男女
職場

子育て
支援

女性は重要な戦力 会社の中核で活躍

弘栄設備工業株式会社



▲社内研修会の様子



◀すっかり定着した献血協力



この人に
聞きました

総務管理本部取締役本部長
松田 晃さん

女性管理職、女性専門職 活躍中

現在、女性の役職者として課長職に1名、係長級に2名の女性が起用されており、会社の中核を担う活躍をしている。

また、男性、女性に関わらず、社内外の研修会等を活用しながら、多くの社員が資格取得に挑戦しており、結果、多くの技能技術資格保有者を有している。同様に女性社員も、資格を有する専門職として活躍しており、一級建設業経理事務士として1名、二級建設業経理事務士とし

て7名の女性社員が業務に従事している。

「ノー残業デー」で 仕事にメリハリ

社員一人ひとりの生活を大切にしながら、より一層仕事の充実を図るため、「あなたのゆとりが家庭のゆとり」をスローガンに掲げ、毎月第1土曜日・第3土曜日は「ノー残業デー」を実施している。仕事にメリハリができ、業務に関しても、より一層集中して取り組めるようになった、と社員からも好評である。

育児休業の取得を推奨しており、本人が希望すれば、在宅勤務制度を活用し、育児をしながら働くことも可能としている。実際、育児休業後に、在宅勤務を経て、段階的に職場復帰した女性社員もいる。

従来より行っていた老人福祉関係施設の草刈活動や献血活動に加え、山形県の「河川アダプト」事業にも参加。県内4箇所河川清掃活動を実施している。これからは地域ボランティアには積極的に参加して行きたいと語っている。

(平成24年取材)

社員の Voice



休業中の資格取得もおすすめ

総務管理本部 斉藤明子さん

私が社内ですべて最初に育児休業を取らせて頂きました。育児休業後には、在宅勤務制度を利用していただき感謝しています。在宅勤務中は、仕事は育児の手が空いた時にやることができました。後輩社員の方にも積極的な制度活用をお勧めしています。育児休業中に資格を取得するのもいいでしょう。自分で目標を持ちながら、仕事と家庭を両立することで、将来に向けての生活設計も充実します。これからも働きながら、常に社会との繋がりを感じつつ、やりがいと誇りをもって仕事に取り組んでいきたいです。



弘栄設備工業株式会社

住 所:山形市北町1-7-2
代表者:代表取締役 船橋 吾一
業 種:管工事業
従業員:99名(女性16名、男性83名)
<http://www.koeisetsubi.jp/>

企業より一言

「一人ひとりが感動を共有し、こころ豊かな会社を作ろう」がスローガン。昭和21年の創業以来、積み重ねてきた施行技術は多彩な実績とともに高い評価をいただき、わずかながらも社会に貢献できる自負と自信を得ることができている現在、これからはお客様にも感動いただけるよう精進していく所存です。

心と心が結びつく 信頼からなる組織を作る

株式会社齋藤管工業



▲陽が差し込む明るい事務所



◀事務所では女性が活躍中



この人に
聞きました

代表取締役社長
齋藤 賢一さん

旧態依然とした雰囲気を打破 働きやすい職場環境を実現

経営方針にも「社員の生活向上を図り、明るく朗らかな職場環境を築く」と謳っているとおり、以前から男女ともに働きやすい職場環境の整備については積極的に取り組んできた。そこには、株式会社齋藤管工業が設備工事業であることが大きく関わっている。「建設業特有というわけでもないでしょうが、職人の世界といえますが、旧態依然とした雰囲気を何とかしたいと思いました。そうでなくてはこの先、生き残れない、上にいけない、そんな思いがありました。」と代表取締役社長の齋藤さんは語る。さらにいえば、「社員一人ひとりに、大人として親としてしっかりした人間になってほしい」という願いにも似た信念があった。

そんな社長の想いは、賞と支給の仕方にも表れている。夏と冬に支給される賞与は、社長である齋藤さんの手によって社員一人ひとりに手渡しされる。その際、反省であったり評価であったり、その働きぶりをしっかり振り返ったうえで、「あなた

はこのような働きをしました」という評価を社長から直接伝えるようにしている。年に2回の節目で、「しっかり振り返ったり評価をしないと、だらだらとしてしまうから」と齋藤さんは話す。

先を読んだ職場のワーク・ライフ・バランス対策

現場に直行することも多い業務であるが、週に一度、毎週月曜日には全社員参加の朝礼を行う。その場で経営理念、経営方針を全員で唱和し、志を一つにしている。

仕事と子育ての両立がしやすい職場作りのため、短時間正社員制度の創設や子育て休暇制度等について検討している。現在は、短時間正社員制度や子育て休暇制度を利用する対象となる社員がいないが、そういった状況が生まれた時には的確な対応ができるように準備を進めている。また、社員の意識付けのため経営コンサルタントによる管理職研修の中に、ワーク・ライフ・バランスを盛り込んでいる。

社員の誕生日には ケーキのプレゼント

社員一人ひとりがそれぞれの目標を掲げることで、働き方の見直しを随時意識するようにしている。ミーティングルームの壁には、「仕事はスピードが大事」「ありがとうの心」などといった社員一人ひとりの目標が張り出されている。

また、風通しの良い職場環境にするため、社内通信を定期的に発行している。事務的な連絡事項だけでなく、社員同士親しみを持ってもらおう、社員の誕生日や家族写真を掲載し、コミュニケーションツールとして機能するよう工夫している。社員の誕生日には会社からケーキを贈ることを慣例としており、社員からも大変好評だという。社長の齋藤さんはその立場から社員一人ひとりとは、なかなか話す機会を持ちづらいが、社員からケーキのお礼が伝えられたことをきっかけとし、社員と直接話す機会が拡がり、大変うれしいと話す。

(平成24年取材)



株式会社齋藤管工業

住 所:東根市大字若木字七窪5555-8
代表者:代表取締役 齋藤 賢一
業 種:建設業
従業員:15名(女性4名、男性11名)
<http://www.kankogyo.co.jp/>

企業紹介

企業理念として、「日々、新たなる時代環境を洞察し、技術力と知恵を駆使し社業の発展を図り、社会に貢献する」「お客様の信頼と満足を第一に考え社員全員一体となり、心と心が結びつく、信頼からなる組織を作る」という二つの項目を掲げている。

家庭があつてこそ仕事ができる、 家庭・地域に密着した企業運営

十和建設株式会社



▲グループ内で手がける介護施設



◀食堂も経営する



この人に
聞きました

総務部福祉事業部課長
前田 早智さん

全ての部門に女性の 管理職・役職を登用

建設を土台として福祉や食堂といった分野へ業務を拡大していったという経緯から、部門ごとに業務や労働の体系が異なるという事情もあるなか、各部門に女性管理職・役職者を1名ずつ配置しており、女性役職者の割合は47%と高い割合となっている。各部門に女性の管理職を登用することは、女性が気兼ねなく相談できる職場環境作りにも役立っている。

外部機関による研修も含め、社員研修については、男女を問わず、積極的な参

加を推進している。研修や資格取得に関しては、業務上必要とされる資格はもちろんのこと、直接的には関連しないと思われる資格取得についても支援の対象とし、社員一人ひとりが、社会人として、人間としての幅を広げるための積極的な受講を推奨している。

仕事と家庭の両立を応援！ 法定以上の両立支援制度を導入

短時間勤務制度については、対象を「小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員」としており、法定以上の両立支援制度を導入している（育児・介

護休業法では、「3歳に満たない子を養育する職員」が対象となる）。また、年次有給休暇の取得率も年々増加している。

なお、育児休業などの長期休業者が出た場合の対策として、キャリアのある高齢者の積極的雇用などにより代替要員を確保し、人員不足の解消に努めている。

また、男女ともに働きやすい職場環境を整備するため、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントの相談窓口を設置している。これらの施策は、相談しやすい体制を整える意味合いだけでなく、窓口を置くことでの抑止力としての効果もある。

地域の行事への参加は、毎年、地元の中学・高校からのインターンシップを積極的に受け入れている。受け入れに当たっては入念な準備を施している。

担当者の気合いの入れようは相当なもので、受け入れる社員側も十分に楽しんでいことが、成功の秘訣である。

インターンシップで訪れた高校生が、卒業後に就職してくれたという嬉しい実績もある。（平成24年取材）

社員の Voice



家庭と寄り添いながら働く

総務部長 遠藤しんさん

登録する以前から、仕事と家庭のバランス、子育てと仕事のバランスに配慮した働き方ができるような風土というか、対応を取ってきました。しっかり規定として整備されたことで、社員にとっても、ますます活用しやすいものとなっています。



十和建設株式会社

住 所: 鶴岡市伊勢原町25-2
代表者: 代表取締役 金内 忠
業 種: 建設業
従業員: 101名 (女性38名、男性63名)
<http://www.towa-kensetsu.co.jp/>

企業紹介

「和心ある付合」「目的ある努力」「信頼ある社員」を社訓に掲げる。「十和の年輪」として、日々の仕事の積み重ねの大切さ、そしてそこから得られる信頼を大きな木にたとえ、「大きくなった十和建設の木はたくさんさんの枝葉で社会、人間を暖かく包んでいます」と説いている。

女性の活躍で建設業界に 新たな風を起こす

高谷建設株式会社



この人に
聞きました

取締役
高谷 時子さん



▲関連会社と共同で開催した安全大会



◀地域貢献活動の様子

女性社員、建設現場で活躍中!

高谷建設株式会社では、平成13年から、女性の能力活用に力を入れるようになったという。性別に関わりなく、一人ひとりが職務をしっかり果たせるように、資格取得のための費用を会社が全額負担しており、自信を持って仕事ができるように配慮している。

実際に一級土木施工管理技士の資格をとり、現場の測量、現場管理、さらには現場代理人もこなしている女性社員もいる。また、社内では男女問わず昇進出来る人事評価システムを導入している。

常に「お互い様」の意識をもって

普段から、社員同士が、常に「お互い様」という意識を持ちながら、子育てにも配慮できる職場環境となるように取組みを進めている。いつでもサポート可能なように、社員とのコミュニケーションも密にしている。

また細かいことではあるが、従来、朝屋に女性社員だけで掃除やお茶出しをしていたが、掃除は当番制に、お茶出しは各自で行うように改めた。

年1回の健康診断では、測定車に会社まで来てもらい、全社員が受診でき

るようにした。また、安全大会を年2回開催し、ストレッチ指導インストラクターや医師、栄養士等を招いての健康管理指導を行っている。とくにストレッチ指導は好評を得ている。

「建設業界は男社会ですが、やはり、これからは女性の活躍する場が、私達の業務にもたくさんあると思っています。例えば、家を建てる時には、台所や勝手口、風呂場とかで、奥様の意見が非常に重要となりますよね。そんなこともあって、女性の立場で設計することがこれからは求められるのだと思います。今からは女性の力を発揮する時代ではないでしょうか。」と、自身も女性である高谷取締役は話す。

(平成23年取材)

社員の Voice



実務経験を経て難関資格を取得

鈴木美智子さん(一級土木施工管理技士)

「外に出て仕事がしたくて、農業か土木関係を考え、高校は土木科へ進学しました。クラスで女性は私だけでしたが、ともあれ、無事卒業し、高谷建設株式会社に入社しました。最初は現場で大変なことも多々ありましたが、先輩方の指導にも助けられ、現在は現場代理人をこなせるようになりました。」そう話す鈴木さんは、実務経験を経て難関の一級土木施工管理技士資格取得している。完成現場に3歳の子どもさんを連れて赴くこともあるという。



高谷建設株式会社

住 所:村山市榑岡中町4-43
代表者:代表取締役 高谷 博
業 種:建設業
従業員:34名(女性4名、男性30名)
<http://www.takaya-kk.co.jp>

企業より一言

「誠実、向上、安全」を社訓に、地域の皆さんが、安全で、安心して生活ができるよう、地域の発展と産業の発展に寄与すべく道路や橋等の公共工事を始め、民間の建築、設計、水道、宅地物件取引業をしている建設会社です。技術の研鑽に努め、地域から信頼される企業として鋭意努力しております。

キラリと光る 仕事と育児の両立支援制度を実施 株式会社たくみ



▲(株)たくみの手掛けた国指定文化財
旧尾形家住宅建造物保存修理工事



この人に
聞きました

代表取締役社長
佐藤 靖之さん

女性管理職、活躍中!

建設業界でも女性の活躍が期待されており、株式会社たくみでは、採用時に女性、男性に関わらず、あくまで個人の資質や能力で判定している。そんな同社では現在、課長代理として1名の女性管理職が活躍中だ。

女性が役職に就いたことで変わったこととして、まず、課内の雰囲気明るくなったことが挙げられる。加えて部下からは、相談がしやすいと好評であるという。

社外とのやり取りでも、物腰の穏やかさのなかにも、たとえばコスト意識など、シビアな面も持ち合わせた対応で個性を発揮してくれているとのことだった。

育児休業後に安心して 職場復帰できる環境を

子の看護休暇の取得日数を、法定より1日多い6日間としている。また、育児

短期間勤務の対象を「小学校就学の始期に達するまで」とするなど(法定では3歳未満)、法定を上回る内容とし、仕事と育児を両立できる環境作りを進めるとともに、介護休業についても不安なく職場復帰できるよう環境を整備している。

現在、これらの休業を取得する予定がある社員はいないが、これから育児休業を利用する女性社員のためにも、健康な赤ちゃんを産み育てられる環境作りを目指しているという。

社員研修にも力を入れている。新入社

員に対しては年に4回、積極的な研修を実施。会社の取組みや方向性、また、建設業界の話はもちろん、一社会人としてどうあるべきか、そんな人間教育まで踏み込んだ内容が特徴だ。

県内外の学校からインターンシップの受け入れを実施、建設業に携わり県内に就職を希望する学生を支援している。

(平成22年取材)



▲次世代へ守り続ける伝統建築

◀年に4回発行する広報誌「巧」

株式会社たくみ

住 所:山形市あさひ町25-17
代表者:代表取締役社長 佐藤 靖之
業 種:建設業
従業員:13名(女性4名、男性9名)
<http://www.takumi-pro.co.jp>

企業紹介

1985年の創業以来、神社・仏閣建築をはじめ、伝統建築物の保存、移築復元、調査設計などに力を注ぎ、先人が残した大切な遺構を伝承していくことが使命と考え、日々の研鑽と惜しみない努力を続けてきた。最新のテクノロジーも取り入れながら、建設を通して地域社会の発展に貢献する。



女性
活躍

家庭
両立

男女
職場

子育て
支援

立場が人をつくる 積極的な女性登用

株式会社東北消防設備



この人に
聞きました

代表取締役
松田 浩さん



▲男女いきいき委員会の様子



◀施設の消防設備等の点検中

女性の管理職割合30%超

株式会社東北消防設備では、総勢23名のうち7名の女性社員が各部署で活躍している。平成20年には初めて部長職に女性社員を登用した。また同年、営業職に初めて女性を配置し、職域拡大を図った。その後、女性の営業課長も誕生している。女性管理職の登用は確実に進んでおり、現在、女性の管理職割合は30%を超えている。

「立場が人をつくる」と言うが、同社では、女性を管理職に登用し、活躍の機会を与えることで、社員のモチベーションを高め、

更には仕事への積極的な取り組みをもたらす結果を得た。トップの英断が人を育むことが、実証された好事例である。

社員の声を反映させた 制度作り

育児休業等の制度について整備するなど、安心して子育てと仕事を両立できるよう取り組みを進めている。それと同時に、介護についても両立できるよう配慮している。

就業規則の内容については会社側が一方向的に定めるのではなく、平成21年に男女いきいき委員会(女性4名、男性5名)を

発足し、社員の声を反映させながら就業規則の見直しを行っている。月1回のペースでミーティングを行い、現在、約1/3の規則を見直し、社内会議で提案する準備を行っているところである。

積極的な地域参画を促進

地域の未来を担う子ども達が防災について考える機会として、職場体験を積極的に受け入れている。また、地域のボランティア活動や、町内会活動、PTA活動などについて、社員に積極的な参加と取り組みを促している。(平成23年取材)

社員の Voice



男女いきいき委員会で活動

管理部長 長岡 恭さん(消防設備士の資格保有)

面接時に社長から、消防設備士の資格を取得してもらいますが大丈夫ですか?と聞かれたこと、子育てのことを確認されたことを覚えています。入社して仕事にも慣れてきた頃、働く環境をよりよくするためについて考えようと、女性部会を発足しました。現在は男女いきいき委員会として、男性社員にも加わってもらい、ワーク・ライフ・バランスへの取り組み、就業規則の見直しなどについての検討を継続して行っています。



株式会社東北消防設備

住 所:山形市南原町1-21-12
代表者:代表取締役 松田 浩
業 種:建設業
従業員:23名(女性7名、男性16名)
<http://toughoku-shoubou.jp/>

企業紹介

安心できる防災文化を創造、人のこころ豊かに暮らしに貢献。「安心」とは、人と人がつながり、人と地域がつながり、人と社会がつながり、将来が少しでも見通せること。「防災文化」とは、防災から減災へ。「人」とは、社員とお客様の双方。「こころ豊かな」とは、毎日が笑顔で楽しく生活できること。



女性
活躍

家庭
両立

女性
再雇用

男女
職場

子育て
支援

社員の「人間力」こそが 会社の宝！

東北電化工業株式会社



▲真剣な眼差しで研修中



◀地元小学生の見学の様子



この人に
聞きました

代表取締役社長
會津 圭一郎さん

ママさん管理職も活躍中！

経済環境が劇的に変化し、少子高齢化が進む現代。企業には、「時代に適応した柔軟で合理的な働き方」がさらに求められる時代とも言える。また近年では、CS (Customer Satisfaction:顧客満足度) から、CD (Customer Delight:顧客感動・顧客が期待する以上の価値を提供する) の時代になったとも言われている。

そんな現状を踏まえ「社員のみなさん一人ひとりが誇りと生きがいを持って仕事に臨み、会社の付加価値を高め、目指す顧客本位のサービス業を実現する時だと思えます。」と代表取締役社長の會津さんは話す。

電気設備工事という業種柄、男性社員が圧倒的に多く、女性の比率は約10%と低いですが、総勢40名の女性社員が各部署で活躍している。その中には女性管理職として頑張っている社員もあり、企画部経理課長 海鋒有子さんは、社会人を筆頭に大学生、高校生と三児の母であるが、女性社員の良き先輩として、皆からとても頼りにされている笑顔の素敵なママさん

管理職として活躍している。

また、女性の役職者は事務職に限らず積極的に登用し、現在、営業職・技術職も含め、女性社員の約30%が役職者として各部署で活躍している。事務職の女性社員についても、技術職への職域拡大を支援するため、「第二種電気工事士」の資格取得について、講習を受講する機会を設け、かつ受講料は会社が全額負担している。こうした結果、技術職に7名の女性が配置されている。

「メリハリ」のある 職場環境づくり

社員の健康・生活を支援しつつ、家族と過ごす時間を大切に楽しんでもらえるように、平成7年には、誕生日休暇制度を導入。平成20年には、リフレッシュ休暇(勤務年数に準じた特別報奨)制度を導入するなど、社員のワーク・ライフ・バランスに配慮した様々な制度を導入している。また、年次有給休暇の取得推進のため、「計画年休制度(連続2日間/年2回)」を設けている。

また、社員の健康管理支援として月一回の血圧測定の義務化や、メンタルヘルスの対応として月一回、産業医による健康相談を開催するなど、社員の健康管理に細やかに配慮した施策を実施している。

年功序列型の人事制度を廃止 個々人の仕事に基づく 新人事制度を導入

年功序列型の人事制度を廃止し、個々人の仕事の難易度や責任の重さなどに基づき公正に評価される新人事制度を導入し、全社員に周知している。

新人事制度の導入に際しては、男女に関係なく公正な人事考課を行うため、「評価者研修」を実施している。また、女性社員をマネジメント研修等各種社内研修に積極的に参加させ、管理・監督者育成を図っている。

また、非効率業務の排除による所定外労働時間の削減を目的とし、「生産性向上を目指した社内プロジェクト」を立ち上げ、それまで慣行として女性社員が行っていた1日3回のお茶出しの廃止などが実現している。(平成21年取材)



東北電化工業株式会社

住 所:山形市青田3-9-18
代表者:代表取締役 會津 圭一郎
業 種:電気設備工事
従業員:329名(女性40名、男性289名)
<http://www.tohoku-denka.co.jp/>

企業紹介

地域と共に発展し、企業を永遠に存続するため「技術の研さんにつとめ、顧客の為に働きます」「安全第一に徹し、収益の向上を図ります」「社会に貢献し、社員の幸福を守ります」を理念とし、地域になくなくてはならない存在として、明るく快適な生活に不可欠な“電気のエキスパート”として地域に貢献している。